

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年11月8日

No.6

会社：現時点では今年の夏季手当並みを考えている
組合：帳尻を合わせるといった経営陣の姿勢に憤慨している！

～2019年度 年末手当第4回交渉報告～

中央本部は、本日11月8日に年末手当第4回交渉を行ない、会社はこれまで3回の交渉で組合の主張について社内議論の結果、現時点の考え方について以下のように示しました。

- ①10月期改訂の運輸収入について年間累計は、コンテナが対計画96.3%、車扱は99.5%となり全体で96.6%、金額で25.5億円ショートしている。10月の台風の影響で減収を余儀なくされている。
- ②昨年度、西日本豪雨災害等の影響で大幅な減収減益となったが、社員一丸となって可能な限り収入確保および経費削減に努めて経常黒字を確保できた。中期経営計画2023を掲げ更なる発展を目指しているところであり、会社発展の原動力は社員一人ひとりの成長を支援し、能力・意欲を最大限に発揮させることが発展に繋がると考えている。
- ③人材の確保のために採用を積極的に進めていく。来年度290名の採用を考えているが、来春にむけ引き続き募集を行ない目標人数の確保に努めていく。
- ④これまでの交渉における議論を踏まえて社内で議論してきた。今回の災害についても、鉄道が果たす役割のために迂回運転や臨時作業に協力していただいた貨物労組には謝意を申し上げます。しかし、家族手当の考え方は今も変わらず年末手当は基準内賃金ベースとし、現時点では今年の夏季手当並みを考えている。

あまいにも職場と経営陣の考え方に乖離がある
会社は株主のためにあるわけではない！！

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ①団体交渉の場で「帳尻合わせ」といった発言をしたことの重みを理解しているのか。経営陣の安直な発言に職場の組合員は怒り心頭である。目標達成のために災害減収分を人件費で帳尻合わせするなど絶対に認められない。
- ②上期の計画が未達であっても10月期改定は数字を変えていない。中期経営計画で140億円の黒字を上げる会社をめざしているのであれば、若年退職による人材流出の防止、採用における優秀な人材確保の観点からも、この年末手当で応えるべきである。

《次ページへ続く》

③会社は誰のためにあるのか。「一般的には株主のためにあるが、社員のためにある」などと堂々と答えているが「1」が社員ではないのか。社員あつての会社であり、計画達成のために頑張っているのは職場の組合員である。

④新制服の不具合や人事管理システムの不備など、職場の不安と不満が払拭できていない。このタイミングでの30年のあゆみの発行や帳尻合わせといった発言に今の経営陣の姿勢が表れている。夏並みなどという数字では到底納得することはできない、会社経営陣は再考せよ！

組合員のみなさん！本日以降、山場の闘いに突入します。「帳尻合わせ」や「会社は株主のためにある」といった会社の姿勢を断じて許してはなりません。組合員が結集して職場から闘いをつくりだし、年末手当満額獲得にむけた闘いを展開しようではありませんか！

中央本部はこのような会社姿勢を絶対に許さず、最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

以 上

次回交渉（回答指定日）は11月14日（木）です。